
第1地域 RRFC 便り5月号

ロータリー平和センターを支える多大なご寄付に関するお知らせ



(K.R ラビンドランロータリー財団管理委員長)

RRFC Habu 様

ロータリー財団を信じて資産を託し、活動を支援してくださる方々がいることは、非常に恵まれていることだと感じずにはられません。皆さまのような多くの方の支えがなければ、ロータリー財団の継続は叶いません。財団の発展を後押ししてくださる方が増えていることは、とても喜ばしいことです。

ロータリー財団がこの度、中東または北アフリカにロータリー平和センターを設置することを目的とした、オットー&フラン・ウォルター財団からの寄付のご誓約 1,550 万ドルという特別なご支援をいただいたことを皆さまにお知らせでき、とても嬉しく感じております。

この地域に平和センターを設立することは、多くのロータリアンの長年の願いでもありました。水、石油、宗教という三つが根源的な要因となり、中東はしばしば紛争の中心地となってきました。社会の理解と政治的な善意があれば、中東の平和と調和に希望がもたらされ、ロータリーが目に見える形で貢献することができます。

この可能性を大きく広げてくださったオットー・ウォルター氏とフラン・ウォルター氏のストーリーをここにご紹介したいと思います。

「オットー&フラン・ウォルター・ロータリー平和センター」と名付けられるこの新しい平和センターは、2026年に開設される見込みとなっており、まもなく設置場所の選定手続きが開始されます。今後も皆さまに随時情報を提供してまいります。

この度の寛大なご寄付をお寄せくださったオットー&フラン・ウォルター財団（Otto and Fran Walter Foundation）に、深い感謝を表します。また、今回の達成の裏にはパストガバナーであるマーサ・"マーティ"・ヘルマン氏とその配偶者であるフランク氏のご尽力がありました。これらの方々にも心から感謝を申し上げます。

心を込めて

2020-21 年度ロータリー財団管理委員長

K.R. ラビンドラン

【200万ドルの補助金プロジェクト：マラリア根絶プログラムをさらに拡大】



<https://on.rotary.org/32zg5n1>

ロータリー財団は、成果が実証されている活動の規模を拡大する大規模プログラム補助金 200 万ドルを活用し、ザンビアでのマラリア根絶活動を支援しています。支援対象となった「Partners for a Malaria-Free Zambia（マラリアのないザンビアのためのパートナー）」プログラムでは、マラリア発生への対応と感染予防において成果が実証されているモデルが使用され、ロータリアンが中心となって活動しています。このプログラムは、ザンビアの 2 つの州にある

10の地区で、マラリア患者を90%削減することを目指しています。

マラリアは、マラリア原虫を媒体する蚊によって広がる疾病で、予防することが可能です。ザンビアでは、主要な疾病と死亡原因であり、特に乳幼児と妊産婦の死亡原因の一つとなってきました。

この補助金により、ザンビアのあらゆるレベルの保健当局と協力し、380人の医療施設スタッフへの研修を行い、2,500人以上の新しい地域保健ワーカーを訓練することで、国の保健体制を強化できます。これにより、被害の大きい地域に住む130万人以上の人びとがマラリアの診断と治療を受けることができるようになり、この致命的な疾病をなくすための国の取り組みに大きく貢献することができます。

米国ワシントン州のフェデラルウェイ・ロータリークラブが提唱するこのプログラムは、ザンビアでのマラリア根絶という目標を共有する地元ロータリー会員と協力団体が協力して実施されています。また、ビル&メリンダ・ゲイツ財団とワールド・ビジョンUSAからそれぞれ200万ドルの共同資金が提供され、総額は600万ドルとなりました。

ゲイツ財団の担当ディレクターであるフィリップ・ウェルコフ氏は、「このプロジェクトは、ザンビアからマラリアを根絶するというザンビア政府のリーダーシップを補完するもの」と述べます。

「私たちは、ロータリーやワールド・ビジョンとの長年にわたる協力関係をさらに発展させ、支援の手が届きにくい地域社会の発展と、マラリアを根絶するという目標の達成に貢献できることを嬉しく思います」

地域住民の診断と治療のために、保健ワーカーには、診断用キット、抗マラリア薬、ランセット（採血用器具）、教育用資料が提供されます。また、自転車と携帯電話を支給することで地域社会との連絡と症例の定期的報告を可能にし、国の保健システムでデータを共有します。地域社会と国の情報が統合されていることを確認し、地域の保健ワーカーのネットワークを継続的に支援することは、マラリア対策の長期的成功を導く地域保健の強化という目標の達成に不可欠な要素です。

フェデラルウェイ・ロータリークラブの会員であるビル・フェルト氏は、地域社会の人たちによって選ばれたボランティアを強化する

ことで、ヘルスケアの利用が制限されている地域社会の人びとの声を広く反映させることができると話します。

この実証済みの医療提供モデルは、効果的かつ持続可能で、地域レベルでマラリアを削減、根絶し、永続的な恩恵をもたらします

ー ビル・フェルト（フェデラルウェイ・ロータリークラブ会員）

サハラ以南アフリカで10年以上にわたりロータリーのマラリア活動に携わってきたフェルトさんは、「この実証済みの医療提供モデルは、効果的かつ持続可能で、地域レベルでマラリアを削減、根絶し、永続的な恩恵をもたらす」と説明します。

ワールド・ビジョンのザンビア担当ディレクターであるジョン・ハッセ氏は、プログラム最大の魅力は、地元の保健ワーカーの力を活用できることだと話します。「これまでの経験から、支援を必要とする人びとがより簡単に医療を利用できるようにすることがいかに重要かを学びました」ハッセ氏はまた、効果的で実績のある地域戦略こそが、マラリアという恐ろしい疾病を減らし、国内でのマラリア根絶に近づくためのカギだと付け加えます。

新型コロナウイルスは依然として世界中で脅威となっており、プログラムのリーダーたちは、保健ワーカーや地域社会のメンバーが安全な環境を確保できるように準備を整えています。保健ワーカーの訓練は、人との距離を置くことを含め、新型コロナ対応のプロトコルに従うこととなります。また、世界保健機関（WHO）とザンビア政府のガイドラインに従って、訓練コースの人数を制限します。個人用の防護具も提供され、ザンビアで新型コロナワクチンが入手可能になれば、保健ワーカーは、より効果的にワクチン活動を進めることになるでしょう。



【世界予防接種週間 4月 24～30 日】



ワクチンの力を伝え広めよう

世界予防接種週間（4月 24～30 日）にご協力ください

ポリオ根絶をめざすロータリーの活動を幅広く伝えるとともに、ワクチンの重要性について認識を高めましょう。ソーシャルメディアでメッセージを発信する場合は #VaccinesWork のハッシュタグをご利用ください。

人の交流と物流が発展した今日、一部地域で発生した感染症が世界的な脅威となりえます。ワクチンは、健康と福祉を向上させるための最良の

手段の一つです。新型コロナへの対応が行われている間も、ポリオやはしかなどの予防可能な疾病から子どもたちを守るために、予防接種を継続していく必要があります。

世界保健機関（WHO）によると、予防接種によって年間 300 万人もの命が救われています。ロータリーと GPEI（世界ポリオ根絶推進活動）のパートナー団体による協力活動により、ポリオによって身体まひとならずに済んだ人の数は 1,900 万人以上になると言われています。

ポリオ根絶活動におけるこれまでの前進は、ワクチンの有効性を証明するものです。このことを多くの人に伝えていきましょう。

世界予防接種週間の

ソ



“
予防接種は大切です
ポリオ根絶活動における
これまでの成果がその証です
”

#ENDPOLIO #VACCINESWORK

世界予防接種週間 2021 [ENDPOLIO.ORG/JA](https://endpolio.org/ja)

Rotary  

【『環境』の重点分野】



ロータリーは、天然資源の保全と保護を促進し、環境の持続可能性を高め、人と環境との調和を促す活動を支援します。補助金やその他のリソースを提供し、地域特有のソリューションと革新を奨励しながら、気候変動と環境破壊の原因、およびその影響の削減に取り組みます。

「地球を守るロータリーの取り組み」

ロータリー財団は、ロータリー会員と地域社会の協力者たちによる以下のような活動に補助金を提供します：**7つ目の重点分野に期待**

- **1,840 万ドル**

地域社会の経済発展や水と衛生プロジェクトへの支援を通じて、過去 5 年間に環境関連の活動に充てられたロータリー財団グローバル補助金です。

「気候変動への取り組み」

ロータリー奨学生と平和フェローが専門分野を環境保護に生かす気候変動により貧困が深刻化するのか？その悪影響を食い止めることができるのか？環境問題について学んだロータリー奨学生と平和フェローがそれぞれの思いを語り、気候変動への取り組みで直面している困難と希望ある解決策について説明します。

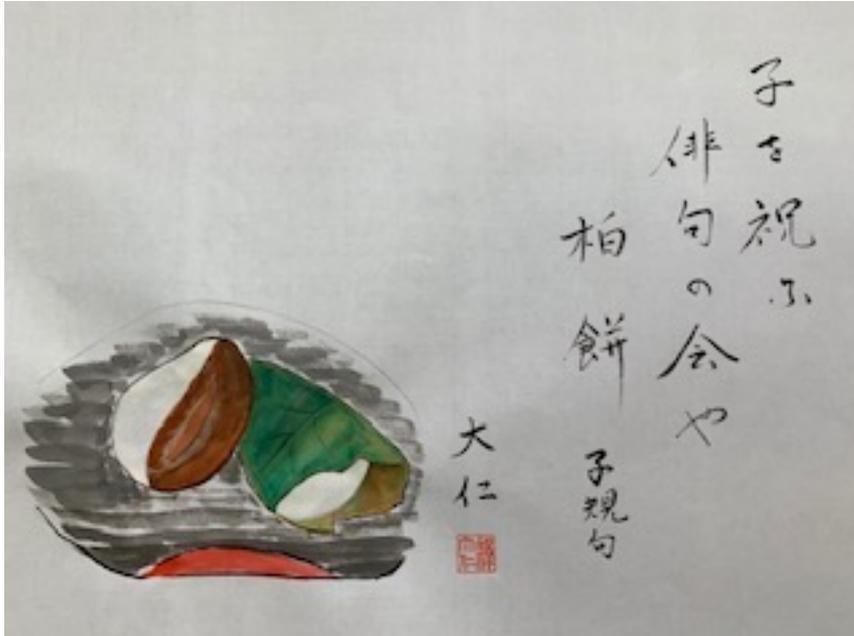
フランチェスコ・メノンナさん（電力と再生可能エネルギー・シニアアナリスト）



「気候変動は何百万人もの人びとの生活を破壊し、今日すでに問題になっている移民圧力を一層悪化させる原因になりかねません」とロータリー奨学生であるメノンナさんは述べます。

メノンナさんは 2014 年にワシントン D.C のジョンズ・ホプキンス高等国際関係大学院を卒業。ニューヨーク市の Fitch Solutions で電力と再生可能エネルギーのシニアアナリストとして働き、新興国や先進国の電力市場と再生可能エネルギーへの投資分析を専門としています。

【子規の句に柏餅とべこ餅】



(端午の節句に柏餅)

今回も正岡子規の句を紹介いたします。子規は子供の頃に父親と別れます。母八重の回想では、「乳児のころの子規は顔が異常に丸く、見苦しく、鼻も低かった。体質虚弱で背も低く、内向的だったことからよくいじめられていたという」幼くして家督を継ぐが、後見人や親族との関係も複雑であったと想像します。この句は明治33年の夏に詠んだもので、きっと幼き頃、父母が端午の節句を「柏餅」で祝ってくれたことを思い「夏人事」に掲載したのではと想像しています。しかし、他の句には薬や体調を詠むものが多くみられます。この俳句の会に柏餅がお茶請けに出されたのかも知れませんね。余り家庭的に恵まれることのなかった子規にとって親を思う気持ちは誰よりも強

かったと思われれます。この句は亡くなる2年前のもので、体調も優れない状態で、更に前向きに生きた精神力に頭が下がります。明治35年（1902年）9月19日に34歳の生涯を終えています。

辞世の句は、以下の三句で絶筆三句と呼ばれるものです。

「糸瓜咲て 痰のつまりし 仏かな」

「痰一斗 糸瓜の水も 間に合はず」

「をとゝひの へちまの水も 取らざりき」から子規の命日を

「糸瓜^{へちま}忌」と言うそうです。

私は俳句などに何の造詣もありませんが、母が俳句や短歌を喜んで句集なども出していたことが縁で、最近それを読んで母の心情を尋ねています。（羽部記）